

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、学校教育目標を「差別の現実には学び、人権教育を実践する。」とし、めざす子ども像を、

- ・現実を正しく見つめ、差別を許さない子どもの育成
- ・自分のものとして学力をしっかりと身につけて行く子どもの育成
- ・一人ひとりをみんなで、みんなのことを一人ひとりが考える集団の育成

と設定し、人権教育を基盤に、一人ひとりの良さや可能性をのばし、「生きる力」を育む教育活動を推進してきた。

しかし、子どもたちを取りまく環境はますます厳しくなっている。21世紀のグローバル化、ICT化・少子高齢化等の急激な社会状況の変化は、児童や家庭・学校を取り巻く環境に様々な影響をもたらし、将来が予測困難な時代に直面すると危惧される。教育においては、学習指導要領の改訂によって提示された「主体的・対話的で深い学び」を追求するとともに、道徳教育、外国語科・外国語活動、プログラミング教育等、新たな教育課程の充実にも努めなければならない。

このようななか、今年度も、本校が重点課題として大切にしてきた「学力保障」と「集団の育成」に向けた特色ある取り組みと大阪市教育振興基本計画にある三つの最重要目標に向けた取り組みを一層推進していく。

本校の「授業が変われば子どもが変わる」を合言葉に、真摯に授業改善に取り組んできたことで学力面や生活面での課題は少しずつ改善されてきたが課題も残る。以下にその現況を示す。

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にすると再設定する。 ➡80.7% (年度目標 80%以上 **達成**)
- 学校保護者アンケートにおける「友だちとお互いの違いを認めながらなかよくできている」について肯定的に回答する保護者の割合を95%以上にする。 ➡91%(年度目標 90%以上 **達成**)
- 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合 90%にする。 ➡91.3% (年度目標 85% **達成**)
- 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を80%以上にする。 ➡75% (年度目標 78% **未達成**)
- 児童アンケートにおいて「読書が好きである」について、「とても思う(思う)」と答える児童の割合を80%以上にする。 ➡71% (年度目標 75% **未達成**)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、40%以上にする。 ➡33.1%（年度目標 38% **未達成**）

○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全市比（標準化得点）を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も 100 を上回る。

➡国語 4年 97.2→98.9 5年 99.2→95.3 6年 96.1→97.5
算数 4年 98.2→98.1 5年 99.1→96.5 6年 97.9→98.9

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 70%以上にする。 ➡61.5%（年度目標 70% **未達成**）

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である「握力」「反復横跳び」「長座体前屈」の平均記録を、令和3年度より3ポイント向上させる。

➡男女別6項目において4項目で向上、2項目で低下。

	握力	反復横跳び	長座体前屈
令和3年度	男) 13.1 kg	男) 39.4 回	男) 27.7 c m
	女) 16.0 kg	女) 36.4 回	女) 34.3 c m
令和5年度	男) 12.9 kg (0.2 ↓)	男) 42.1 回 (2.7 ↑)	男) 28.4 c m (0.7 ↑)
	女) 12.6 kg (3.4 ↓)	女) 38.4 回 (2.0 ↑)	女) 32.9 c m (1.4 ↓)
令和6年度	男) 15.5 kg (2.4 ↑)	男) 39.3 回 (0.1 ↓)	男) 28.7 c m (1.0 ↑)
	女) 15.7 kg (0.3 ↓)	女) 38.9 回 (2.5 ↑)	女) 33.9 c m (0.4 ↓)

【学びを支える教育環境の充実】

○本校教員の児童の ICT 活用を指導する能力に対する肯定的な割合を 85%以上にする。 ➡85.5%

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を 75.4%以上にする。 ➡96.8%（年度目標 84.7% **達成**）

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な回答する児童の割合を 90%以上にする」と再設定する。
- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめの解消に向けて対応している割合を毎年 95%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 92%以上にする」と再設定する。
- 学校保護者アンケートにおける「友だちとお互いの違いを認めながら仲良くできている」について、肯定的に回答する保護者の割合を 90%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、40%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比(標準化得点)を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も 100 を上回る。
- 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 70%以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である「握力」「反復横跳び」「長座体前屈」の平均記録を、令和 3 年度より 3 ポイント向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 児童アンケートにおいて「読書が好きである」について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
- 本校教員の児童の ICT 活用を指導する能力に対する肯定的な割合を 85%以上にする。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教員の割合を大阪市令和 4 年度末数値より 10 ポイント改善した 84.7%以上に再設定する。

※基準 2：1 年間の時間外勤務時間が 720 時間以下、時間外勤務時間が 45 時間を超える月数 6 以下、時間外勤務時間が 100 時間を超える月数 0、直近 2～6 か月の時間外勤務時間の平均が 80 時間を超える月数 0、すべてを満たす。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を78%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を81%以上にする。
- 学校保護者アンケートにおける「友だちとお互いの違いを認めながら仲良くできていく」について、肯定的に回答する保護者の割合を90%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を86%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を38%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を85%以上にする。
- 児童アンケートにおいて「読書が好きである」について、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

全校集会や平和集会などを中心に取り組みを進め、人権を尊重する精神が身に付いてきている。不登校傾向にある児童やいじめアンケートで認知した内容については、児童に寄り添った指導を継続するとともに、保護者への働きかけ、関係諸機関との連携などの取り組みの成果が見られた。しかし、小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「学校のきまり・規則を守っていますか」「自分にはよいところがあると思いますか」の項目では、中期目標にわずかに届かない結果となった。今後も道德の学習や人権教育、教職員の継続した声かけにより、児童の規範意識や自尊感情を高める取り組みを行っていく。また、保護者や地域、関係諸機関との連携を深化しながら、児童に寄り添った教育活動をさらに充実させていきたい。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

研究授業を中心とした外部講師による指導や研修、メンター研修で校内の専門的な知識をもつ教員による講話や実技研修を行うことで、実践的な授業づくりについて学び、教員の指導力向上に取り組んだ。また、算数科を中心に習熟度別指導や少人数指導を充実させ、基礎基本の定着を図った。体力の向上については、体育科の学習だけでなく、体力づくり週間、学級遊び、南運動場の開放など、体を動かす機会を多く設定し、運動の日常化を図ることができた。しかし、中期目標の目標値に到達できず、基礎基本の学力が定着していない児童や学力の二極化、体育科の学習に関する指導方法や教材・教具の工夫、指導計画の検討など課題も多く残った。今後は、低学年から基礎基本の定着を図るための指導・支援や学年問わず運動に親しめるような取り組みを充実させ、学力や運動能力の向上を図っていきたい。

【学びを支える教育環境の充実】

児童アンケートにおける「読書が好きである」の項目では、中期目標をわずかに下回る結果となった。進んで読書する児童とそうでない児童の個人差が大きい状態である。しかし、長寿命化工事の影響で図書室の環境が決してよいとは言えない状況の中、図書ボランティアや学校図書館司書、図書委員会により、図書室の環境整備や読書を推進する取り組みを行うことができた。ICT活用を指導する能力については、目標値とほぼ同等であった。ICTを使った授業づくりや効果的な活用方法などについて研修・実践を重ねてきた2年間の研究の成果であると言える。教員の時間外勤務時間については、中期目標の数値を10%以上上回る結果となった。閉庁時刻の掲示、時差勤務、超過勤務時間の確認などを行うことで、教職員が各自で働き方を考え、計画的に業務に取り組むことができるようになってきている。しかし、時間外勤務をする教員が固定化しており、保護者や地域の理解も得ながら、今後も改善を図っていく。

大阪市立清水小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を78%以上にする。【R7 77%】</p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を81%以上にする。【R7 84.5%】</p> <p>●学校保護者アンケートにおける「友だちとお互いの違いを認めながら仲良くできている」について、肯定的に回答する保護者の割合を90%以上にする。【R7 93%】</p> <p>●小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を86%以上にする。【R7 86.7%】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1-1 いじめへの対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめや差別を許さない心情を育む。 ・人権教育に関わる研修を行うことで、教職員の人権意識を高め、児童理解の充実を図る。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回以上人権・平和・仲間づくりについて考える全校集会を行う。 ・月1回以上の児童理解の場を設け共通理解を図る。 ・「心の天気」を通して、児童の実態把握を行い、日々の指導につなげる。 ・学期に1回のいじめアンケートを通して、いじめを許さない環境づくりを行い、よりよい人間関係の構築に努める。 	B
<p>取組内容②【施策2-1 道徳教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活目標や強調週間を設け、子どもたちの規範意識を高める。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「気持ちのよいあいさつをする」「時刻を守る」「自分で考えて行動できる」を軸とする環境をつくりあげ、児童の意識を高める。 ・「みんなのやくそく」を周知し、安全な学校生活をめざす。 ・年間1回以上「あいさつ週間」に取り組む。 ・道徳の授業を充実させるとともに、教育活動を通して「きまりやルール」を守る意識を高める。 	B

<p>取組内容③【施策2-4 インクルーシブ教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「共に学び、共に育ち、共に生きる」インクルーシブ教育を推進し、児童の自立を支援するシステム・環境整備を進める。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回の部会や個別の課題について検討する場を設定し、教職員間の共通理解を図る。 ・「学校と親の会」を学期に1回開催し、学校と保護者の連携を図る。 ・近隣の特別支援学校との交流を通して、障がいについての知識、理解を深める。 	B
<p>取組内容④【施策2-5 多文化共生教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な体験活動を通して、児童自らが自主的・自発的に国際理解、多文化共生の学びに取り組む機会を充実させる。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク等、体験的な活動を実施する。 ・芸術文化の観点でふれ合う（観劇鑑賞を含めた）機会を年1回以上設ける。 ・総合的な学習や学級活動を通して、児童が主体的に学ぶ国際理解・多文化共生教育の場を設定する。（日本の伝統文化、SDGs等も含む） ・民族講師やC-NET等との交流を全学年で年1回以上実施する。 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>中期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な回答する児童の割合を90%以上にすると再設定する。 ➡84.5%（未達成） ○年度末の校内調査において、学校で認知したいじめの解消に向けて対応している割合を毎年95%以上にする。➡100%（達成） ○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ➡R6 2.43% R7 1.45%（達成） ○小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にすると再設定する。➡86.7%（未達成） ○学校保護者アンケートにおける「友だちとお互いの違いを認めながら仲良くできている」について、肯定的に回答する保護者の割合を90%以上にする。➡93%（達成） ○小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。➡76.9%（未達成） <p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校集会や児童理解の場は概ね計画通り実施できた。 ・「心の天気」の入力率は向上し、指導の目安として一定の活用が見られた。 ・いじめアンケートを活用し人間関係把握に努めている。 ・子どもサポート委員会の報告内容は精選されてきた。 <p>⊖</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「心の天気」が日常指導にどの程度生かされているかは不明。 ・共通理解の機会が少ない月もあった。 	

取組内容②

- ・生活目標・強調週間・あいさつ週間は実施できた。
- ・「みんなのやくそく」は教職員間で共通理解が進んだ。

⊖

- ・「自分で考えて行動できる」段階には至っていない。
- ・あいさつ・時間遵守は児童差・学級差が大きい。
- ・しない児童への指導が不十分。・遅刻・移動遅れが目立つ。
- ・ルール遵守意識の低下を感じる。

取組内容③

- ・特支部会・学校と親の会を実施し課題共有の場を確保。
- ・個別課題の検討は計画通り実施。
- ・支援学校との交流も継続。

⊖

- ・交流は学年限定で指標妥当性に疑問。

取組内容④

- ・多文化週間・体験活動・地域学習（コリアタウン等）を実施。
- ・他校と比較しても取り組みは充実。

⊖

- ・児童主体の学びの設定が難しい。
- ・芸術文化項目は多文化と関連が薄い年度もある。
- ・担当教員の負担増への懸念。

次年度への改善点

取組内容①

○心の天気の利用方法を明確化（活用場面・共有方法）

- ・毎日、朝と帰校前の2回の入力を行う。各学級に応じた入力を目安を指導する。

○児童理解共有の定期機会の保証

- ・子どもサポート委員会を月中行事に組み入れる。

取組内容②

○「気持ちのよいあいさつをする」「時刻を守る」を重点的に指導する。

- ・「自分で考えて行動」は児童の実態に合っておらず、評価がしにくいので精選する。
- ・あいさつ週間中にセルフチェックカードを使用し、全校児童に結果を放送で伝えルールを守ろうとする意識を持たせる。

- ・「次の時間の準備を済ませてから休み時間に入ること」、「チャイムが鳴った瞬間に休み時間を終え、次の行動に移ること」を指導する。
- ・教室内に「みんなのやくそく」を掲示する。

取組内容③

○特支部会内容の全体共有

- ・子どもサポート委員会を活用し、特別支援児童についての周知を図る。
- ・特別支援部会の議事録をスキップメールで共有する。

○「親の会」の充実と改善

- ・親同士の交流という本来の意義を重視し、教員は不参加とする。また、保護者が参加しやすいように、開催を「学校と親の会」の終了後に設定する。

取組内容④

○多文化週間の充実と改善

- ・運営においては、国際理解部の業務負担適正化を図るため、既存の教材資産（ラミネート掲示物、CD、歌詞カード等）を最大限に活用する。新たな作成業務を削減しつつ、質の高い活動を維持・継続できる体制を整える。

(様式2)

大阪市立清水小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を38%以上にする。【R7 33%】</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。【R7 68.2%】</p> <p>●小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。【R7 83.9%】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策4-3 英語教育の強化】</p> <ul style="list-style-type: none">・全校で外国語教育を推進する。	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">・朝のモジュール(10分)を活用して、全学年で外国語活動を実施する。・日常的に外国語にふれることができるように環境を整備し、児童が自発的に外国語に親しめるようにする。(掲示物を工夫し増やしていく等)	
<p>取組内容②【施策4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進(各学校の実態に応じた個別支援の充実)】</p> <ul style="list-style-type: none">・研究主題「子どもたちが主体的に楽しく学べる授業づくり」の実践や公開授業を通して、授業力の向上を図る。・「主体的・対話的で深い学び」へとつながる授業実践に努める。	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">・全教員が1回以上の研究授業等を行う。・メンター研修を中心に、外部講師を招聘する。・研究主題に基づいた研修会や討議会を、学期に1回以上実施する。	
<p>取組内容③【施策5-1 体力・運動能力向上のための取り組みの推進】</p> <ul style="list-style-type: none">・運動する喜びやできる喜びを味わえる活動を通して体力向上を図る。	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">・児童が日常的に運動に親しめるように環境整備を行う。(走・ボール運動等)	

<ul style="list-style-type: none"> ・なわとび、かけあし等の取り組む時間を設定し、体力づくりにつなげる。 ・トップアスリートの招聘や体力サポート事業を活用し、運動への興味関心を広げる。 ・新体力テストの結果を経年で分析することで、体育の学習や運動活動の見直しを図り、児童の体力向上に努める。(Excel で入力し学期末に学年で分析等) 	
<p>取組内容④【施策5-2 健康教育・食育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童自らが生活習慣を振り返ることができる取り組みを通して、自身の健康意識を高める。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健だより等を活用し、児童自らが生活習慣を見直すことができるようにする。 ・学校保健委員会を年1回実施する。 ・保健だよりや委員会活動を通じて、保護者・地域・児童への啓発を行う。 ・給食週間の取り組みを年1回以上実施する。 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>年度目標について、小学校学力経年調査における算数の平均正答率に関しては、目標値に達しつつあり、引き続き基礎学力の定着に尽力していく。</p> <p>同じく経年調査質問紙による結果を分析すると、話し合い活動の充実に関しては、やや目標達成値に及ばないが、限りなく近づいてきている。運動が好きか、および外国語の学習に関する質問については、ほぼ目標値に達している。</p> <p>中期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、40%以上にする。➡33% (未達成) ○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比(標準化得点)を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も100を上回る。 ➡5年生算数のみ上回る (未達成) ○小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。➡83.8% (未達成) ○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。 ➡68.2% (未達成) ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である「握力」「反復横跳び」「長座体前屈」の平均記録を、令和3年度より3ポイント向上させる。 ➡反復横跳びのみ向上 (未達成) <p>取組内容①</p> <p>毎週月曜と水曜の朝のモジュールタイムで、継続して外国語に親しむことができている。週2回のうち1回が作成した動画のため取り組みやすかった。また、C-NETのモジュール開始の放送が効果的であった。さらに、階段等の外国語に関する掲示物も充実し、児童が生活の中で英語に触れる機会が増えた。</p>	

取組内容②

研究主題に基づいた各学年の授業をはじめ、一人一授業やメンター研修等、計画通り実施できた。メンター研修では、講師として ICT 支援員や教頭先生を招いて実施することができた。

取組内容③

業間休みに南運動場の開放をしたことで、子どもたちものびのびと体をうごかすことができた。なわとびやかけ足週間、体力サポート授業では、計画通り取り組み体力づくりにつなげることができた。トップアスリートや体力サポート授業に積極的に申込み、半数の学年が実施することができ、3学期に実施した業間体力づくりでは、なわとびやかけあし週間も設けることで、前向きに参加することができた。新体力テストの結果を受けて、準備運動で柔軟を徹底するなど、体力向上に向けて授業で取り組むこともできた。

取組内容④

学校保健委員会では、健康委員会を中心に目の健康について考えたり、校医の講話を聴いたりして、目を大切にしようとする意識を高めることができた。また、給食週間では、給食集会を行い、給食の準備をしてくださっている人への感謝の気持ちを改めてもち、残さずしっかり食べようと意識することができた。保健だより等も計画的に発行され、保護者への啓発も行えた。

次年度への改善点

取組内容①

外国語に触れる機会を増やすために、朝の放送で英語の歌を流す。(月ごとに歌を変え、歌詞を配布するなど) 掲示物を今後どうやって増やしていくか検討の余地がある。一部の児童の登校時間を考えれば、朝にモジュールをするのは、マッチングしない。モジュールの動画は、来年度も使える。一回きりの放送ではなく、同じ動画を何度もくり返し見ることにも有効。モジュールの研修を1学期に実施することも検討する。

取組内容②

メンター研修での外部講師の招聘は少なかった。

取組内容③

工事の影響で中運動場が狭く、環境整備が難しかった。南運動上の開放について、教職員の負担にならないのであれば継続。「〇〇月間」などの企画をもとに、その時だけ開放するなど、学期に1度のペースにするなど、開放期間については今後検討。中運動場に目安となる白線を引くことや、ボール運動を促進する取り組みや設備を常設しても検討していく。より安全に遊べるようにするため、バスケットボールのゴールを南運動場へ設置を検討する。縄跳び用ジャンプ台の使用ルールや新設も検討する。新体力テストの分析については、来年度の結果の記録や分析に関しては、専用ツールを活用することで、体力向上のための取り組みにつなげ、学校全体で運動に関する目標を持ったり、体育の時間に全学年で共通した活動に取り組んだりする。その学年の一番数値が低い項目を高める効果がある運動等を、体育の授業の準備運動の中に意識的に取り入れていく。

取組内容④

手洗いについて、児童が自主的に実践できるよう、取り組みを検討する。

大阪市立清水小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕</p> <p>○第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 85%以上にする。【R7 97%】</p> <p>●児童アンケートにおいて「読書が好きである」について、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。【R7 73%】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 6 - 1 ICTを活用した教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT 等を活用した授業づくりを行う。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童用端末の積極的な活用を図る。 ICT を効果的に活用できる環境整備を行う。 ICT を積極的に活用した授業実践を行う。 	A
<p>取組内容②【施策 7 - 1 働き方改革の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の働き方を調整して、効率よく仕事を進め、児童と向き合う時間を作る。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 交換授業を積極的に行う。 毎月月末近くに超過勤務時間を確認し、自身の勤務時間の調整を行う。 	B
<p>取組内容③【施策 8 - 2 「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館開放等、図書ボランティアや読み聞かせボランティアとの連携を図り、読書環境を整備する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に応じて、本に親しむ機会を工夫する。(低・中・高別) 魅力ある「学校図書館」を目指し、読書環境整備を行う。 読み聞かせ会、アニメーション等、読書の楽しさを伝える取り組みを進め、読書に親しむ機会を増やすことで、図書館の利用を増やす。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>年度目標について、学習者用端末の活用率は、ICT 担当が月ごとの数値を提示し、各担任・担当が意識することで、少しずつ上がってきている。働き方改革については、教員一人ひとりが超過勤務時間を確認、意識することで、少しずつ超過勤務時間も減少してきている。読書に関しては、目標数値には達しなかったが、学校図書館司書の方が図書室の環境を整備してくれたり、各学級で係の児童が中心となって読み聞かせを行ったりする等、本に親しむ機会を工夫している。</p>	

中期目標

- 児童アンケートにおいて「読書が好きである」について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。➡73%（未達成）
- 本校教員の児童のICT活用を指導する能力に対する肯定的な割合を85%以上にする。➡84.7%（未達成）
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を大阪市令和4年度末数値より10ポイント改善した84.7%以上に再設定する。➡96.88%（達成）

取組内容①

研究主題に基づいて、ICTを活用した授業づくりに積極的に取り組むことができた。日頃からICT担当者が環境整備に努めていたこと、今年度ICTが研究テーマだったためと考えられる。ただ、系統立てて指導していくために、他学年の具体的な取り組みを共有できる機会があればよかった。

取組内容②

交換授業を行うことで、教材研究や授業準備にかかる時間の短縮につながった。ただ、高学年と比べると、低学年は交換授業が難しい現状がある。学校行事の数は少しずつ減ってきてはいるが、内容も精査していく必要がある。

取組内容③

読書ノートの活用や朝の読み聞かせ、昼休みの図書室開放等で、本に親しむ機会を設けることができた。ただ、これらの取り組みによって図書室の利用や児童の読書量が増えているかは疑問が残る。学級文庫やホットスペースの活用や在り方について検討する必要がある。

次年度への改善点

取組内容①

- ・Teamsなどを活用して取り組みに使用した資料を共有したり、ICTを効果的に活用した事例を他学年に紹介する場を設定したりする。
- ・教職員のICT(学習者用端末)活用への意識をさらに高める必要がある。
- ・学習者用端末の持ち帰りルールを作成したほうが良い。

取組内容②

- ・交換授業や超過勤務時間の確認を今後も継続して行う。それと同時に学校行事、会議等を精選していく必要がある。

取組内容③

本に親しむ機会の工夫について

- ・高学年になると、読書ノートがマンネリ化してきていて、意欲向上につながりにくい。冊数ではなく、ページ数をたしていく等、ちがう手立てが必要ではないか。
- ・各学級で行っていると思うが、本に親しむ機会がどのようなものであったか見えて

こないのが指標として適切かどうか。

- ・朝活動時間を読書にも充てる。待ち時間などに読むことができる本を一冊所持するよう
に進める。
- ・委員会の児童ができる読書推進の取り組みを考える必要がある。

読書環境の整備について

- ・ホットスペースを読書の場として、今よりも環境改善する。
- ・ホットスペースの担当者を明確にして、本の充実を図っていく。
- ・ホットスペースの本の入れ替えは、工事の関係でないままなのか。ホットスペースの担
当者を決めるのであれば、図書委員会を中心に行ってはどうか。そうすると、本の入れ替
えもスムーズに行えるのではないか。
- ・図書室が遠いことと普段通らないため、玄関のホットスペースを有効活用したら本に触
れる機会ができるのではないか。
- ・ホットスペースの正しい使い方とは。本の管理ができていない。本を読んで「ホッと」
している児童が要るのか。本を読む場所以外の目的で使っていることが多いのではないか。
- ・学級文庫をもう少し充実できないか。

図書館の利用について

- ・一度、図書館利用の推移を知りたい。運動能力の向上、ICTの活用などやるこ
とが多い中で、読書をする時間の確保が難しい。図書館の利用の増加が指標とし
て適切かどうかも含めて検討の余地がある。